

## 「地域防災計画(原子力防災計画編)」素案へのご意見について

総務課原子力防災対策グループ

「地域防災計画(原子力防災計画編)」素案に係わるご意見募集を平成25年3月11日から3月24日まで実施した結果、1件のご意見があり、以下に記載します。

~~~~~  
ホームページで募集していた原子力防災計画の意見を送ります。

専門委員会でも委員の皆様が言っているように、基本計画が、国・道の計画と整合性を取らなければならず、同じような文言が並んでいるだけのものである。

独自の項目も多少盛りこまれているもののニセコ町で独自で作る意味が分からない。

専門委員会の議事録を見ても、それらの意見については今後作られる避難計画に盛り込まれると書いてある。意見を述べても避難計画に盛り込まれると言われているのに、この基本計画の内容について意見を述べろと言われても仕方がないと思う。

専門委員会が出た意見を重視して、ちゃんとした避難計画を作って欲しい。

ただ、1月に道の修正計画が示されているのだから基本計画はもっと早く策定できなかったのか疑問。基本計画が道計画・指針・マニュアルの踏襲だったならば基本計画のみはもっと早く国の期限内の3月18日までに策定できたのではないかと。

国や道がやることを網羅しているため、分量が多くなっており住民が何をすれば良いのか分からない。町住民がやるべきことを抜粋して意見募集するなど配慮が欲しい。

計画については、例えば、図3-1-1で北海道の図をそのままニセコ町の計画の図に持ってくるとニセコ町は、どこから連絡が来るのか良く分からない。最低限、ニセコ町を中心とした連絡系統図に直したほうが分かりやすいのではないかと。

文面については、「町は、～するものとする。」「町は、～努めるものとする。」などと書いてあるが、単純に「～する。」「～努める。」などではダメなのか。読んでいてちょっと違和感があった。書式であるならばそのとおり書く必要もあるだろうとは思っている。

ニセコ町の計画に削除していいものもあるかと思う。

ニセコ町にPAZはないのだから、PAZ内の住民の避難に協力するという文言だけでいいと思う。PAZ内の対策について、ニセコ町の計画に載せる必要はない。

避難の輸送手段で海上輸送が含まれているが、北海道を脱出しなければいけないほど遠くに逃げる必要があるということなのか、いまいち良く分からない。

自家用車の使用については、もっと配慮が図られるべきだと思う。渋滞が発生し誰も逃げる事ができずに被爆した事態になると避難にあまり意味がない。

これから作成される避難計画に、どのような場合は自家用車で逃げる事が出来ると記載されると思うが、それとともに全町民に対しての意識付けをしないと無制限に自家用車で逃げる人がいるので、そのような意識付けが必要である。

避難場所は、旅館・ホテルとするとされているが、ニセコ町に立地しているホテルは、市街地から原発に近づくことになる。PAZの住民避難に対応するためという意味か？

それとも他の市町村のホテルと協定を結ぶという意味か？

仮設住宅が計画に載っているが、UPZ内が含まれているニセコ町でこのような対応をする必要があるのか疑問。長期間避難するという事は大規模な事故が起こる前提だと思うが、ニセコ町に仮設住宅を作っても放射線の影響で危険。もっと離れた地域に計画するべきだと思う。福島は状況は分からないがUPZの近くに仮設住宅が建設されているのか？

計画では、UPZ外についても対策対象とされているのは評価したい。

原子力災害で重要なことは局地的な災害ではないこと。全町の避難が必要であり、時期によって変わってくるが、観光客の避難も必要になってくる。

計画では避難は、役場・消防・警察等の誘導によってと読み取れた。しかし、全町避難を考えるとこの人数では足りない。住民の中にも指導的立場の人を養成していく必要があるだろう。そのようなきめ細かい仕組みを作らなければスムーズな避難体制の確立は無理だと思う。昼間避難だったら学校や各施設からの避難するので、避難するのに集合する段階はある程度省けるが、夜間避難となると集合してから避難ということになろう。そのようなことを考えるとやはり仕組みは必要になろう。机上の計画ではなく、うまく機能する仕組みづくりを期待したい。

スリーマイル島の原発事故、チェルノブイリ、福島事故など放射線が環境に放出された事故はあるが、どのレベルで避難するべきかは避難計画で示していただきたい。泊は、福島と違って炉型が違うので水素爆発等は起こりにくいと言ったが、原子力発電所で重大事故があり、復旧見込みがなくメルトダウンなどの事象があり、放射性物質の拡散が疑われる場合は、放射線の濃度の大小に関わらず、事故があった時点で避難を行うべきである。炉型が違うので起こらないと思うが、チェルノブイリ型の爆発事故があった場合も同様であろう。町内の避難場所に逃げると書いてあるが、町内ではなく広域避難と書いてあるように即時広域避難するべきである。

突き詰めて考えれば、いかに泊発電所の状況を早く情報収集して、いかに即時に避難できるかが鍵になる。この防災計画は長く書きすぎて良く分からないのが本音である。

避難のチラシなどを作成して配布するのはいいが、それだけでは住民に対して行う対策は万全ではない。そのマニュアルをどのように活用して避難に生かしていくべきか考えなければお金の無駄づかいになる。全町民に対して防災に関しての意識付けをこれからどう行っていくべきかを考えなければならない。

情報共有と住民参加で計画を作るのは結構なことであるが、この基本計画だけを公開してもらってもよくわからない。

避難計画を作る前に、放射線シミュレーション結果や広域避難場所想定(北海道での試案は札幌の厚別、白石などあげられている様だが渋滞は大丈夫か?)、避難経路、冬期間の交通状況、道路状況、避難時の交通状況(どのくらいの交通量で渋滞が発生するか)など今まで検討されてきた情報を開示して意見を募集して欲しい。

最後に、短期間で計画を策定しなければならないし、原子力災害は、いままでの災害と違い広域的となる。専門知識も必要となり、大変だと思うが、早く計画策定を終え情報提供をしてもらいたい。

~~~~~

以上